

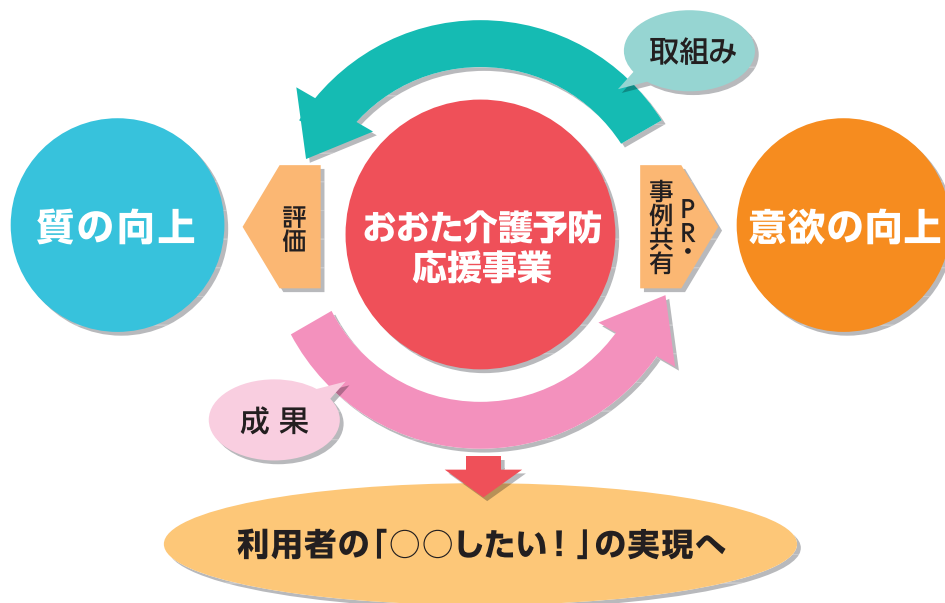
# おおた 介護予防応援事業 事例集



# はじめに

「おおた介護予防応援事業」は、介護予防サービス事業者と利用者の方々による「介護予防・日常生活支援総合事業」での自立支援・重度化防止の取組みを応援することを目的とした事業です。

介護予防サービス事業者と利用者たちが一つのチームになって、利用者ができるだけ自立した生活を送れるように維持・改善に一定期間取組んでいただき、その取組みの結果を評価し応援することにより、各事業所のモチベーションの向上や利用者・家族の維持・改善に対する意欲の向上などにつながることを期待し、大田区における介護予防サービス全体の質が向上していくことをめざしています。



この事例集では「第1期おおた介護予防応援事業」に参加していただいた介護予防サービス事業者と利用者(全32チーム)による介護予防の取組みから、評価委員会\*において特に優秀な取組みとして選出された5チームの取組みを大田区における介護予防の優秀な事例として紹介しています。

介護予防サービス事業者の方々、介護予防の取組みにあたって、利用者の方ができるだけ自立した生活を送れるようにするにはどうしたらよいかを検討する際の参考として活用していただけることを期待しています。

※学識経験者、介護事業者、区職員で構成

## 第1期おおた介護予防応援事業の概要

参加申請受付期間	平成30(2018)年11月12日～平成31(2019)年1月11日
参加チームの状況	参加申請チーム数:32チーム 評価対象チーム数:25チーム(7チームは参加申請後に辞退)
取組み結果提出期限	平成31(2019)年1月12日～令和元(2019)年9月30日
取組み結果の評価・選出方法	令和元(2019)年11月15日 評価委員会開催
結果公表	25チームの取組み内容を評価し、優秀な取組みとして5チームを選出 令和元(2019)年12月4日
表彰式	令和2(2020)年1月21日 大田区介護保険事業者連絡会にて表彰

# おおた介護予防応援事業

P.3-4

事例タイトル

不安のバリアを取り払って浴槽をまたげ!!



P.5-6

事例タイトル

意識への働きかけ  
～きっかけと、声掛けて、自信をつける!～



P.7-8

事例タイトル

転居後の環境変化による  
不安と混乱の状態から自信を持って  
ご生活できるよう支援する



P.9-10

事例タイトル

歩行の不安を軽減し、以前のように  
主体的に地域活動に参加できるようになる



P.11-12

事例タイトル

第2号被保険者の社会復帰へむけた支援  
(チームケア)



エントリーチーム一覧

P.13-14

# 不安のバリアを取り払って浴槽をまたげ!!

利用者 81歳、女性、一人暮らし

## 取り組み 内容と 結果

利用者の方は、両下肢に両側変形性膝関節症の既往歴があり、歩くことや階段の上り下りに不安を感じていました。注意しながら毎日を過ごしていましたが、ある日、自宅玄関で転倒、腰椎を圧迫骨折してしまいました。骨折後はコルセットで固定していましたが、それでも強い痛みが続き、室内の移動をはじめとするADL(日常生活動作)が低下し生活にも支障をきたすようになりました。自宅に風呂が無いので銭湯通いをしていましたが、その銭湯に行くことも難しくなり保清目的で通所サービスの利用を始めました。ご本人の「人に迷惑をかけたくない」という性格から、元に戻りたいという気持ちが強くありました。

そこで、「一人で銭湯に通う」という目標をつくり、通所サービスでは意欲的にリハビリに励みました。スタッフも銭湯に行けるよう情報収集を行い、友人や家族の支援を受けながら前向きに取り組み、結果、目標を達成することができました。



浴槽での訓練



## 地域や 社会資源の 活用への 取組み

- 老人いこいの家での教室内容(プログラム)や運動等の情報提供や近隣の一般スポーツジム等の情報提供を行っています。
- 定期的に連絡し現状把握をして、家族や友人との繋がりの大切さを改めて伝えています。

## 参加して みての 感想

- 事業参加により、どう行動したかを自らに問いかけて整理し、他人に伝える言葉に置き換えて文書化するという作業がとても勉強になりました。また、モニタリング内容を分析し問題点を特定していく作業を通じて、今後、自立支援に向けた取組みを行うひな型ができたと思います。(ふろ一む40)
- 利用者の理解、前向きな自立心と、メンバーである地域包括支援センター新井宿、ふろ一む40の的確なアドバイスなどを活かし、このような素晴らしい結果になったと思います。(リベルタ池上)

## 1 サービス種別 ケアマネジャー

## ■ 「浴槽またぎ」の訓練のために実際に銭湯を確認

腰椎圧迫骨折のため銭湯に行くことができず困っていると相談が入りました。自宅に風呂がないため、当面は保清目的で通所型サービスを利用することに決めましたが、最終的には「バスを利用した銭湯通い」を目標と定め、段階を経て一人で行動ができるように提案しました。本人から不安な点をていねいに聞き取り、気持ちに寄り添いながら不安の払拭に努めました。実際に銭湯に行き段差や手すりなどを確認したり、利用者との人間関係を確認して初めは周囲の助けを借りるよう提案するなどしました。



利用者の人に迷惑をかけずに自助努力しようとする性格から、初めは近隣に住む友人や区内に住む娘たちの手助けを活かすことを考えました。

入浴の場を様々な角度から検討し、「銭湯通い」を目標としました。特に浴槽をまたぐことを不安としていることから、サービス事業者に「浴槽またぎ」の訓練が必要と伝え、実際に銭湯を確認してもらいました。

初めは友人の介助を受けて練習し、自信がついてきたところで単独銭湯通いへと移行するプランを関係者で共有しサポートを実施しました。

## 2 サービス種別 地域密着型通所介護事業者

## ■ 銭湯に近い環境に似せて疑似訓練

利用者から銭湯での不安な点を確認したところ、湯船に入る時に手摺がないことが不安であるとわかりました。このため施設の管理者が銭湯に問い合わせ、許可を得て訪問調査を行いました。介護主任、入浴スタッフとミーティングをし、まず施設の入浴設備をできる限り銭湯に近い環境に似せて疑似訓練をすることにしました。



銭湯では湯船の出入り用に段が設置されていたため、施設の湯船にも踏み台を設置しました。

また、銭湯では蛇口を手摺り代わりにできたため、これも類似の物を設置しました。管理者、介護主任、入浴スタッフで施設での入浴状況を都度確認し、介助内容の検討を繰り返し行いました。

その結果、最終的に着脱、洗身、洗髪、浴槽またぎを一人で行うことができるようになりました。

評価委員  
コメント

- 高齢期のうまい生き方は、いくつもある生活課題の中から自分にとって大切な物を選び取ること、選んだらそれを一生懸命練習することです。そして、それでもだめなら何かに頼ることです。このプランはそれを地で行っていると思います。
- タイトルが秀逸です。ケアマネジャーもサービス事業所も利用者も、目指すべき方向性がわかりやすく前向きに取り組めるようなタイトルです。

専門職だけでなく、利用者を支えるすべての社会資源を活用したケアマネジメントを実践しています。目標をより細分化して浴槽のまたぎ動作まで落とし込んだ支援は適切なアセスメントによるものと考えられます。銭湯で入浴するとは何かという問いに対して、具体的かつ適切なアプローチを行っています。ケアマネジャー及びサービス事業所が通所介護事業所内での枠を超えたアプローチが素晴らしいです。

地域包括支援センター入新井、  
医療法人社団 涓泉会 山王リハビリステーション(通所介護)、  
フランスベッド株式会社 メディカル大田営業所(福祉用具)

## 意識への働きかけ ～きっかけと、声掛けで、自信をつける!～

利用者 78歳、男性、妻と二人暮らし

### 取り組み 内容と 結果

2013年8月に入院、下肢筋力低下とステロイド治療で骨折リスクが増大したことから、介護保険で通所介護(リハビリ)と手すりのレンタルを開始しました。サービス開始当初は、転倒すると自力ではなかなか立ち上がれずショックを感じていましたが、懸命にリハビリに取り組んだ結果2017年9月には要支援2から要支援1になりました。そのタイミングで地域での体操教室をご提案し、デイサービスとともに体操教室にも参加するようになりました。

2018年末に当事業へのエントリーとともに、ポールウォークに参加しデイサービスの修了を目指すことを提案したところ、ご自身で活動場所を増やすなど積極的な姿勢がみられました。2019年3月にデイサービスを修了し、福祉用具レンタルで上り框の手すり等のレンタルやトイレの手すり設置の住宅改修を行い、認定更新はしませんでした。



エルゴメーター(自転車運動)



地域の体操教室の様子

### 地域や 社会資源の 活用への 取り組み

- 公園体操に毎週通い、その体操教室では通っていたデイサービスの職員が講師となることもあるため、本人の変化も理解してくれ安心感も得ながら参加してもらうことができました。同会のポールウォーク教室への参加も促し、本人が「やる!」という思いをもってくれたため、見学することなく参加を開始し、休むことなく週1回参加されています。
- おおた高齢者見守りネットワークの活動について情報提供しました。包括職員も協力しているため、積極的な声掛けとともに、本人の活動を評価するよう努めています。また他の地域でのポールウォークの会にも自主的に参加し継続しています。

### 参加して みての 感想

- 事業に参加することで、いかに利用者ご自身の気持ちが重要であるか、支援者にできることは何か、改めて整理することができました。私たち支援者ができることは、利用者にとのようにつなげを提示し努力に協力できるかを支援者同士が共に考えることだと改めて理解しました。  
(地域包括支援センター入新井)
- 機能訓練サービスの和気あいあいとしながらも肅々とした部分は変わらず、次なるステップや場をチームで一緒に考え取り組めたらと思います。(山王リハビリステーション)
- おおた介護予防応援事業を通じて、チームとしてみんなでお客様を支えることの大切さを学びました。  
(フランスベッド株式会社 メディカル大田営業所)

## 1 サービス種別 ケアマネジャー

## ■ 自信を後押しする「声掛け」

散歩を続けたり地域の体操教室にも参加していたが、「デイサービスに行っているから今の状態が維持できている」という思いが強くなりました。そのため、急にデイサービスを修了するのではなく、並行してポールウォークなど地域活動への参加をすすめデイサービス修了に向けて声掛けをしました。地域活動に参加している時に本人が努力している点などをくみ取り伝えていくようにしました。



本事業へのエントリーを目指したことが、本人のやる気を引き出し、自主的に活動範囲を広げるきっかけとなりました。

地域の体操教室に参加している時、声掛け等を行いデイサービス以外でも安心して活動できることを実感してもらいました。デイサービスの職員が体操教室の講師の一人であり、通っていたデイサービスの方もいたため安心感が増しました。

各事業所も本人の意向を尊重し無理をせず、自信を後押しするような声掛けをするよう協力体制をとりました。

## 2 サービス種別 通所介護

## ■ できることはご自身で行っていただく働きかけ

「できることはご自身で行っていただく」を基本的な対応として、サービスを組み立てました。例えばエルゴメーター（自転車運動）では、時間や負荷は機能訓練指導員が設定し、日々の利用は運動開始までのボタン操作は自身で行っていただきました。



日々の利用の中で、「できないこと」や「できるがリスクを伴うこと」を把握しつつ、常に対話型の声掛けで運動の自己効力感を高めるように働きかけました。

例えばエルゴメーターでは「椅子の高さ調整」は困難ですが、「高さ」自体は把握されていました。「ボタン操作はスタッフが見守る」が、「声をかければ、正確に操作可能」というように、自身でどのくらい運動しているのかを振り返ることを可能にしました。

## 3 サービス種別 福祉用具貸与

## ■ 身体状況にあった提案

定期的な訪問（モニタリング、担当者会議等）で、身体状況と使用状況を確認しました。

低い位置からの立ち座りが少し不安とのことで、住宅改修と福祉用具貸与について説明しました。



リハビリの結果、ほとんどの福祉用具は必要なくなりましたが、住宅改修を提案しトイレに手すりを取り付けることになりました。

 評価委員  
コメント

- 通所サービスで支えつつも地域での活動を視野に入れた促しをしているところが素晴らしい。ポールウォークなら転ぶ心配なく歩けると思います。心配があってもできることが見つかることは大変な自信に繋がると思います。
- 既存のサービスのみならず、地域資源もうまく活用した示唆的なサービス提供事例。分かりやすいです。
- 認定更新もしないというご本人の自立心の高さが素晴らしく感じるとともに、その気持ちになっていただく（不安を払拭する）関わりをチームで行った結果と感じました。介護サービスの理想の活用方法という感じがしました。

# 転居後の環境変化による不安と混乱の状態から自信を持ってご生活できるように支援する

利用者 80歳、女性、一人暮らし

## 取り組み 内容と 結果

利用者の方は大田区内での引越直後2日間連続で迷子になり交番で保護されたことから地域包括支援センターの支援が始まりました。関わり始めた当初は、転居先周辺の道路が覚えられず買い物や銭湯に行けなかったり、買い替えた電気製品を使用できないなど、日常生活でのお困りごとにより精神的にかなり不安定な状態でした。また、自宅の鍵を家に置いたまま外出したため、扉がロックされ家に入れないことがあり、度々管理会社が対応していました。

対応していました。

支援はまず買い物同行により道を覚えていただくことから始めました。徒歩での距離を少しずつ延ばし、最終的にはバスに乗って転居前から利用していた金融機関や病院、商業施設に一人で行くことができるようになりました。また、近くの銭湯に行くことも日課になり知り合いも増え交流の楽しみもできました。こうした変化から当初の不安感や混乱はなくなり自信を取り戻し、今では外出の機会も増えています。



同行したバス停の風景



ヘルパーとケアマネジャー

## 地域や 社会資源の 活用への 取組み

- 利用者の方に直接手渡しをする配食弁当の利用を通して、安否確認を継続しています。

## 参加して みての 感想

- 訪問型サービスである生活力アップサポートを利用させていただくことで転居後の生活不安が解消され、自信を持って元気 に生活していただくことを目指すことができました。  
(地域包括支援センター徳持)
- 利用者の目標を具体的なものにすることで、利用者の総合事業に対する理解がしやすく、自分がどのように生活していきたいかを意識することができると感じました。  
(ヘルパーステーション池上長寿園 南蒲田)



## 1 サービス種別 ケアマネジャー

## ■ 課題を丁寧に分析し、ひとつずつクリア

迷子になったことが利用者の不安を大きくしていました。まず道を覚えることを優先し、買い物や食事の用意が不安なくでき自信を取り戻せるように、週2回のヘルパーによる買い物同行を中心に家事支援のプランを作成しました。電気製品の使用などちょっとした生活の困りごとが多々あり、状況確認の連絡や必要に応じての訪問、またヘルパーや家族との連携を図り対応しました。



転居前から利用していた金融機関や病院へ行く際に、バス停やバスの時間がわからず困っていたためバス停まで同行し、時刻表の写しを渡しました。安否確認ができるように配食サービスの利用手続きのお手伝いをしました。遠方の家族と連絡を取り合い、協力を得るようにしました。家に閉じこもっていないか、地域の人と交流し楽しみが見つけれられているかなど様子を確認しました。

## 2 サービス種別 訪問介護

## ■ 具体的な行動と一緒に

①近所にあるコンビニへの買い物に同行しました。片道徒歩10分弱。



目印になる看板やお店を毎回声掛けして伝え覚えられるように支援しました。最初はヘルパーが誘導しましたが、自信がついてからは見守りながら同行しました。

②少し離れたスーパーに同行しました。片道徒歩15分。



最寄りのバス停の場所を先に覚えていたためバス通りを利用しました。複雑な道順を避け直線で行ける道を選び往復同じ道を通りました。

③さらに離れたスーパーに同行しました。片道徒歩20分。



利用者から品揃えの多いスーパーに行きたいと意欲的な発言があり、踏切を渡るため、溝などに注意して歩くよう声掛けをしました。

④新しい電子レンジ、IHクッキングヒーター、掃除機の使用法の確認を行いました。



ヘルパーと一緒に使用方法を確認することで、新しい電気製品を利用できるようになりました。食事の温めができるようになりました。掃除機を使うことで室内を清潔に保てるようになりました。

⑤買い物同行時に銭湯への道も案内しました。



銭湯はすぐ近くだったため曲がる目印を伝えたところ1回の同行で覚えることができました。銭湯では以前からの知り合いとの交流や新たな知り合いもでき楽しみになっています。銭湯のすぐそばにある飲食店で食事ができるようになりました。

評価委員  
コメント

- 本人の自信を取り戻すことで生活圏が拡がり、活動能力も向上したことが評価に値すると思えました。不安を払拭できたことが良い結果に繋がったと思います。
- 利用者の抱える課題に対して、きめ細やかに分析するとともに、サービス提供者も丁寧な関与を行い、効果も出ていると思えました。
- 少し対応が遅かったり、違う対応をしていたら、閉じこもりになってしまってもおかしくないケースです。ケアマネジャーをはじめとしてチームそれぞれが明確な意図と目標設定をしながらサービス提供することで最善の結果につながったものと感じました。

# 歩行の不安を軽減し、以前のように主体的に 地域活動に参加できるようになる

利用者 80歳、女性、夫と二人暮らし

## 取り組み 内容と 結果

利用者の方は地域で手工芸を主催されるなど地域活動も活発にされていましたが、外反母趾かんげつせいはいこうに加え間欠性跛行かんけつせいはいこう※があり歩行に不安を感じていました。少しでも歩行不安を減らしたいとのことから、まず医療用のインソールを導入し、さらに歩行力改善のためにリハビリ型デイサービスの利用を始めました。

デイサービスではレッグプレス(脚の屈伸動作)や平行棒(立位訓練)など興味のあるマシントレーニングを中心に積極的にリハビリに取り組みました。また、それらのマシンと並行し歩行姿勢や足底への加重方法の指導、足首を反らすリハビリ等を約5か月間続けたところ、歩行力に改善がみられるようになり、活動的な生活ができるようになってきました。ご本人も「リハビリのおかげで移動が楽になった」と効果を実感しています。



通所介護事業所の様子



手工芸教室の様子

かんげつせいはいこう

※間欠性跛行:一定の距離を歩くとふくらはぎなどに痛みやしびれ等があって歩行が困難になり、しばらく休息すると治まるもののまた歩き続けると再び痛み出すという症状

## 地域や 社会資源の 活用への 取り組み

- 「いきいきシニア体操」、「ポールウォーク教室」への参加など、デイサービスの回数を週2回から1回に変更した際のフォローを自主的に見つけ参加しています。サービス修了者を対象とした「いこいへいこう!体操教室」(地域包括支援センター六郷・西六郷主催)に参加の予定です。

主催していた手工芸の教室は、デイサービス利用中もメンバーの協力があり休むことなく続けてきました。手工芸教室の会場は、地域包括支援センター六郷が設置されている「六郷地域力推進センター」にあることから、高齢者見守りキーホルダーの更新等、今後も包括職員と定期的な関わりを継続していく予定です。

## 参加して みての 感想

- 担当ケアマネジャーのアセスメント、デイサービスでの課題軽減の為にプログラムの提供と気合いが入りチームで修了を目指す事ができました。今回の成果は、ご主人と一緒に頑張った成果だと思います。(地域包括支援センター六郷)
- 本事例では利用者と家族、地域包括支援センター、デイサービス、ケアマネジャーがそれぞれの役割を果たしながら、集団としても「ワンチーム」となって相乗効果をもたらすことができました。(株式会社アーネストケア)
- 本人の運動意欲が高く、機能向上に向けて頑張っているのをとても実感することができました。(レッツ倶楽部多摩川)

## 1 サービス種別 ケアマネジャー

## ■ 完治を目標にせず、歩行不安軽減をテーマに

サービスの利用理由が「歩行に不安がある」とはっきりしていたことから、完治を目標にせず、歩行不安を軽減することをテーマとしました。

特に段差のあるところでの歩行に強い不安があったため、デイサービスでは歩行バランスを中心に指導してもらう計画を立てました。

サービス利用期間中は定期的な聞き取りを行い、本人が効果を感じていることを随時確認しました。



利用者の方はもともと地域活動を活発に行っており、歩行不安を解消したら何がしたいかという話を中心に話し合いを行いました。その過程で、地域包括支援センターと地域活動の情報を共有し活動について提案しました。デイサービスの利用回数減を地域活動(いきいきシニア体操、ポールウォーク)で補うようにして、目標達成への意欲を維持しました。

## 2 サービス種別 通所介護

## ■ 夫婦で一緒に取り組み、身体機能が向上

通所型サービスである「はつらつ体力アップサポート」をご利用いただきました。サービス開始時は、レッグプレス(脚)、チェストプレス(胸・肩)、ローイング(背中・腕)等、6種目のマシンによる全身運動と立位で行う下肢強化運動を中心に実施しました。

現在は「ベーシックコース(基礎体力向上を目的とした座位中心の運動)」から「アドバンスコース(より身体機能向上を目的とした立位中心の運動)」に移行し上級者向けの筋力強化運動を行っています。



当初アドバンスコースにあまり関心がないようでしたが、夫が一生懸命取り組んでいる姿に刺激され、利用者の方もコースを変更されました。結果的に転倒の不安が大幅に軽減されることにつながりました。



アドバンスコースの器具

評価委員  
コメント

- 体力を落とさないためのトレーニングと間欠性跛行をうまく理解して、必要な日常生活を送る工夫が大事です。「はつらつ体力アップサポート」がハマって、運動機能が向上しているところは素晴らしく、その後の地域での活動が広がったところも素晴らしいです。
- 歩行の不安が軽減され、移動手段が獲得されたことにより、活動的な生活を手に入れたケース。目標や目的を明確にしたことが良い結果に繋がったと思います。
- 叶えたい自立した生活の姿から逆算してプランニングするのではなく、ADLの改善から積算して本人の自立した生活に多くの選択肢を与えられるプランニングと感じました。社会資源の活用も何かを目指すということではなく、いくつかの選択肢の中から選び実践することができます。ADLの改善の重要性を再認識しました。

地域包括支援センター上池台、  
好日苑ケアプランセンター上池台(居宅介護支援)、学研ココファン仲池上ヘルパーセンター(訪問介護)、  
医療法人社団 涓泉会 ジップ・山王リハビリ(通所介護)、プロトライフケア蒲田(福祉用具)

## 第2号被保険者の社会復帰へむけた支援 (チームケア)

利用者 61歳、男性、一人暮らし

### 取り組み 内容と 結果

2014年12月に心臓ステント術の説明を受けている時に脳出血を発症し入院加療となりました。その際、介護保険を申請したところ要介護2の認定を受け居宅介護支援を開始しました。ご本人の努力とサービス利用等により状態が改善し更新時には要支援となりました。介護認定時は身体麻痺による不自由を強く感じていましたが、要支援認定後は、人生や今後のライフスタイルに視野が広がるようになり、就労経験をいかし「税理士」の資格を取得し自信がもてるようになり活動範囲も広がりました。



通所介護事業所での支援の様子



リハビリテーションの器具

### 地域や 社会資源の 活用への 取組み

- 大田区障がい者総合サポートセンター「さぼーとびあ」の相談支援や、本人と同様の働きざかりに身体に障がいのある方のピアカウンセリング情報を提供しました。また、パソコン、スマートフォンが利用できるため、安全なサイト(障がいや第2号被保険者間交流)と一緒に検索しました。

### 参加して みての 感想

- 第2号被保険者で年齢も若いため、ご本人のストレングスを最大限に引き出し、活用する自立支援の原点が求められるケースでした。ケアマネジャーを中心に、本人の意向と能力、生活歴を綿密にアセスメントし、自立への必要性を理解してもらいつつサービスを補完的かつ効果的に利用していただきました。介護保険における自立支援という原点に立ち返り本人の自立した在宅生活をチーム一丸となって考え、実践できたケースです。(地域包括支援センター上池台)
- 担当者会議を通じて、他のサービス責任者との積極的な意見交換を実施することで本人の意見を尊重しつつも性格なども考慮して、安全かつ安心した在宅生活が継続できるようにサービスを開始されていたことを思い出します。(プロトライフケア蒲田)

## 1 サービス種別 ケアマネジャー

## ■ 本人の強みをチームで共有

各事業者及び関係者から報告書や電話で情報収集し、サービス実施時のモニタリングで現状把握に努めました。本人の探究心や知識欲、行動力といった強みや、生活歴などあらゆる視点から分析しチーム間で共有しました。その上で自立度向上に向けて「できること」を重ねていきました。ご本人からの発言、意欲を応援し、社会資源の情報や少し先を見据えたイメージを共有しました。



これまでの生活歴や仕事復帰への意欲などに着眼し、強みをチーム間でくり返し共有しました。

初めは「できません」という発言もありましたが、会話に留意して本人からできることを見つけるように配慮しました。「できません」という発言が出ても傾聴しつつ、成功体験を出して根拠を示す言葉をかけ続けました。

## 2 サービス種別 訪問介護

## ■ 日常生活で出来ている例をあげて応援

要介護から要支援に移行となり、同じ内容のサービスを希望されたが、ご自身でできることが増え、健側である左手を活用しながら入浴サポートを継続しました。



患側である右手に麻痺が残っていますが、健側である左手に関しては字が書ける能力は残っていたため、左手で可能な部位の洗身を行っていただきました。「できません」という発言もありましたが、日常生活でできている行為を例にあげ、根拠を示して応援しました。次第にご理解いただけるようになりました。

## 3 サービス種別 通所介護

## ■ 職場復帰の意欲に着眼して声掛け

個別機能訓練加算(Ⅰ)のプログラムと集団体操によって機能向上を図りました。職場復帰に向けて意欲の向上に着眼して声掛けを継続しました。



職場復帰に向けてYシャツのボタンのかけ外しを練習しました。

本人が持参した会社の書類で発声練習をしました。

 評価委員  
コメント

- 最近、リハビリテーションの期間が短くなっているので、しっかりと地域でリハビリテーションのプロセスを辿っていくことが必要です。リハビリテーションのためには、多職種による専門的なアセスメントが必要です。チームでの会議を他の例よりもきっちりと行って、本人が気づいていないニーズなども掘り起こすことも必要かもしれません。就労経験を活かし「税理士」資格を習得できたことが、このチームの素晴らしい働きです。
- 第2号被保険者の方を自立につなげたケース。ストレンクスを生かした支援、チームとしての共有が丁寧です。
- 受傷後、介護度の改善や資格取得等、本人の努力の継続が読み取れました。それを支え、応援するチームケアの実践であると感じました。ADL及び生活機能の改善も確認できることから、サービス事業所の支援が適切であったと読み取りました。61歳という若い方であるため、パソコンやスマートフォンの活用による情報収集やSNS等によるコミュニケーション等に着目しアプローチしています。

# 第1期おおた介護予防応援事業 エントリーチーム一覧

(※1 掲載の順序は、各チームのエントリー受付番号順となっています。 ※2 太字はチームの代表を表しています。)

2018 001	タイトル	自宅に浴室がない方への総合支援事業
	チーム	<b>地域包括支援センター徳持</b> 、山王ケアサポート中央(居宅介護支援)、リベルタ池上(地域密着型通所介護)
	取組み概要	はつらつ体力アップサポートでADLの向上と銭湯通いを目指す。
2018 002	タイトル	骨折が治るまで、困難になっている家事の支援や家事の工夫をする
	チーム	<b>地域包括支援センターやぐち</b> 、東京海上日動みずたま介護ステーション蒲田(訪問介護)、プロライフケア多摩川(福祉用具)
	取組み概要	腰痛等あり歩行が不安定。腕の骨折が治るまで訪問介護と一緒に家事に取り組む。
2018 003	タイトル	いくつになっても前向きで希望を忘れない利用者を支える
	チーム	<b>地域包括支援センター馬込</b> 、スマイルケア(居宅介護支援)、リハビリデイ月の光(地域密着型通所介護)、プロライフケア多摩川(福祉用具)
	取組み概要	92歳で大腿骨を骨折。生活の目標を丁寧に聞き取り、福祉用具とリハビリで外出を支援する。
2018 006	タイトル	早口言葉やパタカラ体操による口腔機能向上訓練による、嚥下機能・口腔機能の改善
	チーム	<b>地域包括支援センター西六郷</b> 、レコードブック新蒲田(地域密着型通所介護)
	取組み概要	口腔機能向上訓練により、食事中や水分摂取時のむせこみを改善する。
2018 007	タイトル	不安のバリアを取り払って浴槽をまたげ!!
	チーム	<b>地域包括支援センター新井宿</b> 、ふろ一む40(居宅介護支援)、リベルタ池上(地域密着型通所介護)
	取組み概要	銭湯通いを目標に、施設入浴設備を銭湯に近い環境にして疑似訓練で不安を払拭する。
2018 008	タイトル	どうしたら本人の夢を叶えられるか皆んなで考え取り組む
	チーム	<b>地域包括支援センター嶺町</b> 、太陽(居宅介護支援)、ファミリハ 田園調布(通所介護)、株式会社東基 城南営業所(福祉用具)
	取組み概要	夢であるカラオケに通うことを目標に、まず郵便局までの往復に取り組む。
2018 009	タイトル	自分のためだけでなく、誰かのために社会貢献したい
	チーム	<b>地域包括支援センター平和島</b> 、シンシアリハビリデイサービス大森(通所介護)
	取組み概要	介護者の会での講演など、役割をもって地域活動に参加することで前向きな気持ちを維持する。
2018 010	タイトル	自立に向けたデイサービスからの個別メニューのアプローチ
	チーム	<b>地域包括支援センター入新井</b> 、ファーコス薬局 あい(居宅介護支援)、大森リフレッシュ教室デイサービスセンター(地域密着型通所介護)、株式会社東基 城南営業所(福祉用具)
	取組み概要	デイサービス終了に向けて地域の社会資源情報の提供や運動を提案し自立を支援する。
2018 011	タイトル	意識への働きかけ ～きっかけと、声掛けで、自信をつける!～
	チーム	<b>地域包括支援センター入新井</b> 、医療法人社団 清泉会 山王リハビリステーション(通所介護)、フランスベッド株式会社 メディカル大田営業所(福祉用具)
	取組み概要	デイサービスと並行して地域活動への参加をすすめ、不安なくデイサービスを終了する。
2018 012	タイトル	転居後の環境変化による不安と混乱の状態から自信を持ってご生活できるよう支援する
	チーム	<b>地域包括支援センター徳持</b> 、ケアズファクトリー蒲田(居宅介護支援)、ヘルパーステーション池上長寿園 南蒲田(訪問介護)
	取組み概要	転居後に迷子になるも、同行支援で道を覚え買い物や銭湯通いができるようになり交流も広がる。
2018 013	タイトル	お一人で蒲田まで陸橋を渡り安全に行こうプロジェクト
	チーム	<b>地域包括支援センター西六郷</b> 、機能向上トレーニングセンター 大森西のNIWA(地域密着型通所介護)
	取組み概要	脳梗塞による半身麻痺のため外出に不安があったが一人での外出を目標に取り組む。
2018 014	タイトル	目指せ!自立した生活! 毎日を楽しく意欲的に過ごそう!
	チーム	<b>地域包括支援センターたまがわ</b> 、ケアプラン・サンフルーリ(居宅介護支援)、レモン ホームケアサービス(訪問介護)、AIリハ南久が原I(地域密着型通所介護)、プロライフケア蒲田(福祉用具)
	取組み概要	腰痛があるが「地域の会へ歩いて参加すること」「自分で掃除をすること」を目標に取り組む。

2018 015	タイトル	地域の社会資源の利用により生活の楽しみ生きがいを見つける事ができる
	チーム	地域包括支援センター田園調布、ケアプランのアコさん(居宅介護支援)、大田区立田園調布高齢者在宅サービスセンター(通所介護)
	取組み概要	デイサービス以外にも社会資源を提案。趣味の囲碁からシニアステーションに繋げる。
2018 016	タイトル	筋力アップを図り商店街やバス停など日常的な行動範囲について歩いていけるようになる
	チーム	地域包括支援センター蒲田東、レッツ倶楽部多摩川(通所介護)、プロライフケア蒲田(福祉用具)
	取組み概要	取組み開始時は歩行頻度も増えたが、夫の介護等で一時中断。再度運動継続に向けて取り組む。
2018 017	タイトル	社会につながる千羽鶴
	チーム	地域包括支援センター靴谷、シンシリアリハビリデイサービス大森(通所介護)
	取組み概要	60歳で統合失調症を発症。自発的な行動が少なかったが千羽鶴を折ることを生活目標にする。
2018 018	タイトル	「野菜が上手くきれない」「今後、一人で生活していく事に不安である」を地域で教室を開く事で不安を意欲に変えていくまで
	チーム	地域包括支援センター羽田、居宅介護支援事業所ゆうりん大森(居宅介護支援)、ケアオフィス南六郷(訪問介護)
	取組み概要	一人暮らしの不安も得意の塗り絵を教える場を作ることで外出や人との交流が広がる。
2018 020	タイトル	地域を知って、もっとこの街を好きになろう、バスで東京一周してみたい
	チーム	地域包括支援センター大森東、エミクル(居宅介護支援)、寿デイサービスセンター六郷(通所介護)
	取組み概要	骨折後、他県から転入。リハビリ的な外出を繰り返し旅行ができるまでになる。
2018 021	タイトル	いつもの日常生活へ
	チーム	地域包括支援センター平和島、アニスケアセンター(居宅介護支援)、ヘルパーステーション すすらん(訪問介護)
	取組み概要	熱中症で入院後気力が低下したが、家事支援と精神的支援でやる気を育む。
2018 023	タイトル	歩行の不安を軽減し、以前のように主体的に地域活動に参加できるようになる
	チーム	地域包括支援センター六郷、株式会社アーネストケア(居宅介護支援)、レッツ倶楽部多摩川(通所介護)
	取組み概要	歩行不安の軽減を目標にマシントレーニングとリハビリで活動的な生活を取り戻す。
2018 024	タイトル	転倒の不安がなくなるようリハビリを行い精神面の向上(やる気アップ)を目指す
	チーム	地域包括支援センター六郷、株式会社アーネストケア(居宅介護支援)、レッツ倶楽部多摩川(通所介護)
	取組み概要	転倒不安の解消をテーマに、歩行力の改善、疾病や老いとの向き合い方に取り組む。
2018 028	タイトル	掃除に関して、道具、方法を工夫し、自立を目指す
	チーム	地域包括支援センター久が原、ケアプラン みぞら(居宅介護支援)、ケアメイト大田訪問介護事業所(訪問介護)、株式会社 ヤマシタ 大田営業所(福祉用具)
	取組み概要	脳梗塞発症後麻痺が残ったが、柄の長いスポンジでお風呂掃除に取り組む。
2018 029	タイトル	本来の自信を取り戻すためのアプローチを行い成功した事例
	チーム	地域包括支援センター大森、ケアズファクトリー蒲田(居宅介護支援、訪問介護)、通所介護すずなり大森(通所介護)
	取組み概要	脳梗塞と糖尿病の持病あり。ごみ屋敷状態から居室環境を改善し人と交流ができるまでになる。
2018 030	タイトル	人の面倒を見るのが好き、若い者には負けない、人生一度きり何で楽しく過ごす、という本人の意志を中心に取組もう
	チーム	地域包括支援センター千束、リハビリデイ月の光(地域密着型通所介護)、株式会社ケアサービス レンタル大田(福祉用具)
	取組み概要	圧迫骨折と94歳の年齢ながら運動特化型通所に通い刺激ある生活を取り戻す。
2018 031	タイトル	第2号被保険者の社会復帰へむけた支援(チームケア)
	チーム	地域包括支援センター上池台、好日苑ケアプランセンター上池台(居宅介護支援)、学研ココファン仲池上ヘルパーセンター(訪問介護)、医療法人社団 湧泉会 シップ・山王リハビリ(通所介護)、プロライフケア蒲田(福祉用具)
	取組み概要	脳出血を発症し要介護2となるが、努力と支援により要支援となり、社会復帰に至る。
2018 032	タイトル	不安神経症の方の総合事業利用について
	チーム	地域包括支援センター徳持、大田区立徳持高齢者在宅サービスセンター(通所介護)
	取組み概要	精神的な不調により閉じこもりがちだったが、いきいき生活機能アップサポートで外出を支援する。



**令和2年3月発行**  
**大田区福祉部高齢福祉課**

住所: 〒144-8621 東京都大田区蒲田 5-13-14  
電話: 03 (5744) 1407 FAX: 03 (5744) 1522  
<https://www.city.ota.tokyo.jp/>